

【アメリカ】 駐日大使指名上院公聴会

海外立法情報課 新田 紀子

*2013年9月19日、上院外交委員会は、駐日大使の指名公聴会を開催した(10月16日、上院は指名を承認)。

1 ケネディ大使の冒頭発言

駐日大使に指名されたキャロライン・ケネディ (Caroline Kennedy) 氏は、冒頭、第2次世界大戦で太平洋戦線に従軍し、現職の米国大統領として初めて訪日することを望んでいた父ジョン・F・ケネディ (John F. Kennedy) 大統領の遺産を謙虚な気持ちで前進させたいと述べ、1978年に初めて訪日し、広島訪問で深く影響を受けたと発言した。また、①日米2国間の安全保障の強化、②アジア・太平洋地域での民主主義や経済開発における、さらに地球規模での人道的支援や平和維持活動における両国の協力、③貿易の拡大や環太平洋パートナーシップ協定 (TPP) 支持、④学生、研究者、市民交流の拡大に努め、⑤在日米国人の福利に向けた責任を果たしていくと述べた。

2 安倍政権の経済政策とTPP

「アベノミクス」に関連して、駐日大使の役割について尋ねられたのに対し、ケネディ氏は、日本のTPP参加、日米 [並行] 協議などが日米間の緊密な経済協力の機会を提供していること、日本市場の開放と米国企業との協力を深く関心を持ち、日本政府とは、[締結された場合には] TPPの完全実施のために協力していきたいと答えた。同氏はまた、米側関係者は、TPPで日本が「全てを交渉の対象」にしたこと、安倍首相が包括的かつ質の高い協定の実現を約束したことを認識していると述べた。

3 防衛政策、普天間基地移設、在日米軍再編

日本における防衛政策見直しや集団的自衛権に関する議論について尋ねられたのに対し、ケネディ氏は、日米安全保障関係は、地域の平和と安定の基軸であり、日本における防衛政策に関する議論を注視し、議論の過程を理解し、支援していくと答えた。

沖縄県知事が普天間基地移設先の [埋立て] 許可を発出できるような「余地を作りだす」ことにおける大使の役割について尋ねられたのに対し、同氏は、本件の進展についていくらか希望があるように思っていること、在日米軍再編に関心を持つ議員、中でもジョン・マケイン (John McCain) 上院議員 (アリゾナ州、共和党) には [公聴会前に]、本件を注視していくと約束したと述べた。同議員より、在沖縄海兵隊一部のグアム移転は、非常に優先度の高い課題であり、再度事故が起きれば沖縄県民から非常に深刻な反応があること、同県民にグアム移転の進展を保証していかなければならないことを指摘されたのに対し、同氏は、同議員の懸念を真剣に受け止めている

と応じた。

4 東シナ海領有権紛争

東シナ海の領有権紛争について尋ねられたのに対し、ケネディ氏は、東シナ海の島々に関し、米国は関係国による対話を通じた平和的な解決を望んでいると述べるとともに、尖閣諸島については、「長きにわたる、非常に明確な米国政策」として、米国は究極的な主権 [の所在を判断する] 立場をとらず、尖閣諸島は日本の施政権下にあり、日米安全保障条約第5条の対象であるという、これまでの米国の立場を繰り返すとともに、本件を注視し、関係国による議論と解決、緊張の緩和を後押ししたいと答えた。

5 子の連れ去り問題

ハーグ条約の対象とならない、同条約以前の子の連れ去り問題について尋ねられたのに対し、ケネディ氏は、日本のハーグ条約締結を歓迎していること、同条約の対象とならない事案については、同条約の精神の下で対処が可能であると答えた。

6 その他

福島第1原子力発電所問題への米国の協力、対イラン制裁措置に係る日本の適用除外、ソーダ灰、牛肉、液化天然ガスの対日輸出促進などについても取り上げられた。

注(インターネット情報は2013年10月7日現在である。[]は筆者による補足。)

- ・ 上院外交委員会の公聴会の模様<<http://www.foreign.senate.gov/hearings/nomination-09-19-2013>>